

学生と教員とFD懇談会実施記録

日 時：令和5年12月19日（火） 17:00～18:45

場 所：八木山キャンパス1号館3階133教室

出席者：各学科から8名の学生、FD・IR企画部委員から8名、
内部質保証推進委員から教職員3名

小林FD・IR企画部会委員長より、FD活動（大学の教員たちが授業を改善してより良い教育にしていこう活動）の説明・意味ならび学生FD懇談会の趣旨について説明が述べられた。この会は2年前に始まり、今回で3回目となる。毎年、参加学生の生の声を直接聞くことができる大変貴重な場で、学生が大学に対し日頃考えていることや本学にとって課題となることなど、授業評価アンケートだけでは拾うことができない情報を収集できる。ぜひ自由に率直な意見を聞かせていただきたいとの挨拶があった。

授業への要望について（オンライン授業、対面授業に対して）

- 勉強内容の身に付きについては、対面授業でもオンライン授業でも変わらないと感じた。通学に時間をかけて大学で授業を受けに来ているので、オンライン授業とは違う対面授業の良さをもっと出して欲しい。
- コロナ禍で授業を受けてきた学生にとっては、5類感染症移行後のソーシャルディスタンスが無くなった教室で隣の学生との距離感や圧迫感に戸惑いを感じ、慣れるまで時間がかかった。また、教室内スクリーンにスライドを映し説明するだけの授業はオンライン授業と変わらないと感じた。もっと対面授業の良さを活かした授業（学生と教員間の言葉のキャッチボール）をしてほしい。
- コロナ明け直後、授業がオンラインから対面に切り替わった時期は、学生、教員ともに授業の進め方、受け方に対し戸惑っていた（苦勞していた）印象を受けた。また、オンライン授業の時は、よく動画の見返しを利用していた。対面授業後も授業録画システムを利用しているが、録画動画の音が小さい、聞き取りづらい、聞こえないなどの不具合があったため、改善してほしい。ほか、「てくポ」は、スマートフォンから気軽にポータルサイトの情報を得ることができて便利であるが、出席登録のトラブルが多く、学生は不安になっている。
- オンライン授業の場合は、体力を使わず気楽であった。対面授業の場合は、教員が目の前にいるので、学修意欲は増したものの、授業時間100分は集中力が持たないため、90分にして欲しい。また、スライド投影内容をそのまま読むだけの授業であれば、対面授業である必要を感じられなかった。ほか、授業録画動画について、動画部分エラーがあり、見たい場所の動画を見ることができなかった時があり、残念だった。
- 一部科目で教科書を指定されて購入したにも関わらず、授業であまり使われなかったことがあった。教科書代がもったいないため、教科書の内容に沿った授業に改善してほしい。
- 対面授業日に教室でオンライン授業を受けたことがあった。オンライン授業を大学で受ける意義が見つからないため、対面授業、オンライン授業、それぞれ日を分けた時間割にしてもらいたい。ほか、授業録画の音声で教員の話す音量と動画の音量に大きな差があり聞きづらかったため、音量調整を行ったうえで授業録画を公開して欲しい。
- 対面授業になり実習やフィールドワークの機会が増えたことは良かった。対面授業時、スクリーンに投影された動画の音声を流しながら先生が説明を行っていたが、動画の音声に先生の声がかき消されてしまい困ってしまった。また、「てくポ」の出席を押し忘れることがあるため、授業開始時に教員から出席に関するアナウンスをしてもらうなど、押し忘れることのない仕組みが欲しい。
- 対面授業で、スクリーンにスライド投影したものを教員がそのまま読むだけで、学生にメモすらさせないという授業があった。スライド投影の内容が教科書ほぼそのままであったため、ただスクリーン投影を見るだけで授業が終わってしまい不満であった。また、テストについてノート等持ち込み可能かつ穴埋め回答形式であり、だれでも簡単に解ける内容であったことか

ら、テストを行う意味に疑問が残った。ほか、就職希望者にとって、SPI 対策の授業など就職活動に役立つ内容の授業を行ってもらえたことは嬉しかった。

- 授業で学ぶワードに関する歴史や世の中との関連性を説明してもらえると、学生にとってより興味を惹く授業になると思う。
- 対面授業は、授業中や授業後に教室で先生や友人に気軽に質問できるため良かった。しかし、中には質問時間を設けずに授業を終え教室を出て行ってしまう先生がいて、質問することができなかったことがあった。
- 授業録画配信システムについて、演習室での授業録画で、学生用の中間モニターへの投影（板書投影 or PC 画面）切り替えがされず、教員が説明していることに対する投影を見ることができなかったことがあった。

授業評価アンケートについて（設問項目・回答学生の雰囲気等）

- 授業最終回に行う期末授業評価アンケートは、授業に対する要望を書いても回答者に対し改善されるわけではないため、回答が適当になってしまう傾向がある。中間授業評価アンケートは、殆どの授業教員から回答のアナウンスが無かったため数科目しか回答していない。
- 中間と期末に分けてアンケートを実施したことは良かった。中間授業評価アンケートは、改善要望に対し教員がフィードバックしてくれて良かった。また、意見として出したアンケート回答に対し、感情的になっていた教員がいて驚いた。アンケートの選択回答設問数が多いように感じた。選択回答設問よりも、自由記述に重きをおいてもらえると良いと思う。
- 中間授業評価アンケートを知らなかった。期末授業評価アンケートの回答にあたり、若干、先生への忖度が働いた。もし、自由記述の回答を充実させたいのであれば、集中力が高い時が良いと思うため、設問の上位に配置してはどうか。なお、周囲の学生のアンケート回答の状況について、回答時期が期末であることから辛辣な回答はなく、授業への感謝を込めたものに寄りがちと思う。
- 授業終わりではなく、授業開始時にアンケートをとるケースもあった。一定の回答率に達するまで授業が始まらない。不真面目な学生（回答しない学生）がいるため、アンケートに 10 分程費やしてしまい、授業時間がもったいないと感じた。
- 教員からアンケート回答のアナウンスがあるので回答をしている。私は 4 年生のため中間アンケートは無く、期末アンケートのみを回答した。期末アンケート回答の際、授業前半の記憶が薄れているため、適当な回答になりやすかった。また、科目によっては授業内容と設問項目が合っていないため、回答に困ったことがあった。
- 授業評価アンケートの回答率は、授業中に時間をとって行った方が上がると思う。
- 授業評価アンケートの選択肢は適当に回答する学生も周りに多くいると思うため、記述式にした方が正しい回答を集めることができるかもしれない。また、アンケートに回答しない学生は、「回答しない」が授業に対する評価として見て取れると思う。

授業評価アンケートをいつでも書けるようにすることはどう思うか

- その時に思ったことをすぐ書けるので良いと思う。
- 真面目な学生は書くと思うが、多くの学生が書かないと思う。

授業評価アンケートの「自己評価項目」の回答についてどう思うか

- 正直に回答している。周りも真面目に回答していると思う。
- 得意な科目は真面目に回答したが、苦手な科目はいく分適当な回答になりがちであった。
- 正直に回答していたが、授業評価は適当に回答していた。
- 自身も周りも素直に回答した。

ブランディングについて

<質問 1：自身の大学での学びと「スローガン」について語れることがありますか？>

3 名挙手：話していたが、ブランドビジョンが理解できていない

5 名挙手：話せない

○ 学内の教職員にもスローガンを理解していない方がいると感じた。

<質問2：「スローガン」が、あなた自身の活動や学びに、どのように活かされていますか？>

○ 産業デザイン学科の制作課題などで、スローガンを取り入れたものを見かけており、学科内では浸透していると思う。しかし、私自身スローガンの意味を十分に咀嚼できていないため、活動や学びに十分に活かされていなく感じている。スローガンの意味をより理解できるよう、もっとかみ砕いた説明を大学に希望したい。

<質問3：どのような時に大学、学部、学科、組織（例えばサークル）での一体感を感じますか？なぜそのように感じますか？>

- 北海道科学大学との定期戦に選手として参加した際、大学全体としての一体感や部活と大学との一体感を感じることができた。
- 試験対策のとき、友人との一体感を感じた。
- 大学祭実行委員会での活動の時、学科学年を超えた仲間との繋がりや地域との関りに一体感を感じた。また、大学祭当日は一般参加者も含め大きな一体感を感じた。
- サークル内で仲間と一緒に活動している時、サークル間のイベントやコミュニケーションを図っている時に一体感を感じた。
- 研究室でコンテストに仲間と一緒に参加した際、大学を背負っていると思ったときに一体感を感じた。

<質問4：ブランドビジョンやスローガンが実現もしくは具現化されていると思いますか？そのように考える理由があれば教えてください。>

- 大学 Web サイトを見た際に、掲載されている画像等からスローガンの内容が伝わった。しかし、建築・建設・デザインのイメージが強い（多い）印象があり、電気電子・情通・環境・生活・経営のイメージが不足していると思うため、偏りのないデザインにしてもらえると良いと感じた。

最後に、渡邊学長より、今年も良い意見交換ができ、学生に対し有難いと思うと同時にさらに頑張っていかなければと思った。大学はシステムで動いている場と思っており、システムを最適化することと、個々の先生方の改善をうまく組み合わせて良い大学に行きたい。改めて、大学としても、個人としても有難い機会であった。との挨拶があり、閉会した。

